

◎富山市総合体育館について

<1. 視察の目的>

本市では現在、西宮市中央体育館の再整備について、基本計画を策定中であり、常任委員会で議論されている。富山市総合体育館は、財政・人口ともに同規模の中核市である富山市が施設を整備・運営しており、Bリーグのプロバスケットボールチームのホームアリーナとなっています。西宮市でも新体育館はプロバスケットチームのホームアリーナとして使用されることが想定されていることから、施設規模や内容、立地、周辺環境について参考とすることを目的に視察に臨んだ。

<2. 取組みの概要>

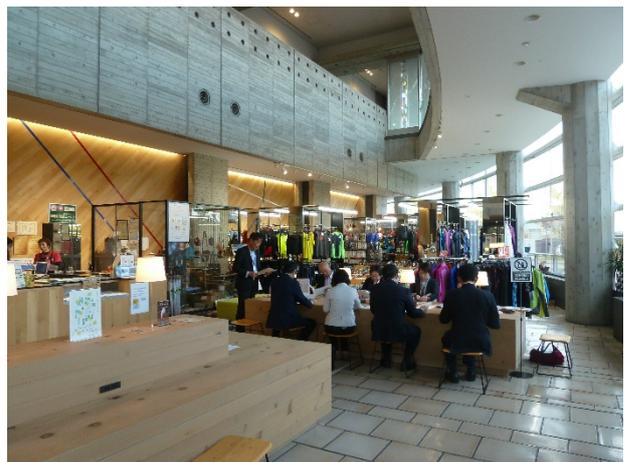
▶富山市総合体育館の概要

- ・1999年6月竣工、敷地面積：17,800 m²（建築面積：12,770 m²、延床面積：28,681 m²）
- ・第1アリーナ：2,534 m²（バドミントン12面、バレーボール3面、バスケットボール2面）、観客席数：固定3318席、可動1332席、合計4650席
- ・第2アリーナ：1,155 m²（バドミントン6面、バレーボール2面、バスケットボール2面）、観客席数：200席
- ・駐車場：280台（JR富山駅より徒歩10分）
- ・付属施設：フィットネスルーム979 m²、体操練習場800 m²、弓道練習場470 m²、ボクシング室127 m²、卓球練習場卓球台3台常設、ランニングコース（第1アリーナ300m、第2アリーナ140m）、研究室74 m²×3室
- ・その他：Bリーグ・富山グラウジーズのホームアリーナ（年間25試合）

▶TOYAMA TOWN TREKKING SITE「トヤマ タウン トレッキングサイト」について

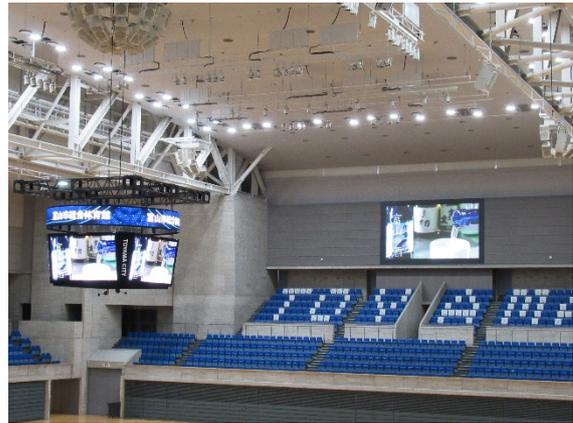
- ・体育館のデッドスペースを地域健康拠点にリノベーションした事例
- ・総事業費1億円（整備費：6000万円、ソフト事業費：4000万円）平成28年度～5年間
- ・整備費には総務省のオープン・リノベーション推進事業として委託金3000万円を充当
- ・ソフト事業費には内閣府の地方創生推進交付金2000万円を充当。

「STAND×TANITA CAFE」（スタンド×タニタカフェ）を核テナントとし、スポーツショップ、スタジオを併設した複合施設。ウォーキングやランニングを楽しんでもらうための情報発信と運動相談などの拠点として、スポーツの前後に楽しめる体に良い飲食を提供するスタンドや、健康管理システムを活用した運動指導を行うディスカバリーなど、4つの機能を中心に構成されている。さらに、これらの機能と連携させたウォーキング・ランニング教室や食育講座などを実施し、体育館の利用者だけではなく、エリア散策の拠点として活用することで、市民の健康寿命の延伸や暮らしの質の向上に寄与するとともに、行政として「住民の健康行動と地域経済の好循環モデル」の構築を目指している。



▶富山市総合体育館利活用交流推進事業

- ・総事業費：1億3,813万円
(地方創生拠点整備交付金を活用)
- ・実施年度：平成29年度
- ・事業の概要：大型の4面スクリーンを設置することで、施設の付加価値を高め、施設の使用料や広告料収入等の増加により、「稼ぐ施設」として自立性を高め、利用促進を図る。



<3. 質問に対する回答で得た情報>

●収支・コスト・利用状況に関する質問

(質問) 体育館の建設費用と年間の維持費、市からの指定管理委託料について。

(回答) 建設事業費 163億6,860万円(建設費 98億5,582万円、用地取得費 59億2,009万円)
平成29年度指定管理委託料 1億8,741万円

(質問) 「稼ぐ施設」として自立性を高め利用促進を図るとしている管理運営方法及び収支について。

(回答) 施設管理者にアリーナ使用のインセンティブを与え、収益として使用料を直接管理者に収入させることと維持管理費の抑制を図ることで管理者の自主性を高める。そうした観点から、指定管理者制度を継続するのか、コンセッションなどのように運営権売却など、様々な管理運営形態を検討したい。

(質問) 総合体育館の利用状況(稼働率や抽選倍率など)並びに公立小中学校の一般開放の利用状況について。

(回答) 総合体育館の平成29年度利用状況 551,361名(稼働率 69.4%)、小学校 70校の体育館の平成29年度利用実績 26,712件、560,105名、中学校 24校の平成29年度利用実績 5,619件、129,312名(小学校、中学校も利用されており、利用実績も把握されている。)

●興行利用による影響に関する質問

(質問) Bリーグのホームタウンとなったことによる影響と対応(駐車場不足や体育協会等のスポーツ関連団体との利用調整など)、並びに課題について。

(回答) ホームアリーナとして年間25試合程度の公式戦が開催され、そのほとんどが土日開催であるため、これまで開催されてきた競技団体主催の大会等が他の施設での開催とするようグラウンズがBリーグ申請する際に、各種競技団体に説明し理解を求めた。施設の管理者である市体育協会が、年1回、利用調整会議を開催し調整している。

<4. 意見・感想等>

建設費は、本市が現在計画している規模と変わらず、非常に立派な施設であった。施設整備の際には、施設が果たすべき役割やコンセプト(市民の健康増進など)の設定が重要であると改めて感じた。建設当初は、単なる市民スポーツの場や大会利用の場というだけで施設を整備したことが伺えたが、近年、既存施設を積極利用する政策に転換し、デッドスペースであった箇所も、国の制度を活用して、リニューアルしてコンセプトをはっきりさせて市民の利用を促していた。また、サブ

アリーナ（第2アリーナ）にも放送設備があり、メインアリーナ使用時もサブアリーナでの大会使用が可能な施設であったが、利用実績（メインとサブで違う大会が開催される事例はあるのか等）は確認できなかった。

また、メインアリーナはバスケットボールコート2面分の広さで固定席3318席を確保できている。また、メインアリーナは長方形の作りとなっているが、富山市の担当者からは、興行利用を想定しているのであれば、興行誘致の経験上、興行開催者は正方形の会場を求める傾向があるとの説明があった。今後の検討の参考となる情報をいただいた。

<5. 市に対する提言>

【提言1:興行利用を想定するのであれば、利便性の向上は欠かせない】

今回視察した体育館は、富山駅から徒歩10分となっているが、実際に歩いてみると、約7分で到着し、駅から少し歩けば施設が見えてくるため、近く感じた。一方、西宮市の新体育館の建設予定地は、JR西宮から徒歩約17分、阪急西宮北口から徒歩約19分と富山の3倍かかり、実際に歩いていくと、遠く感じた。現在の出入り口ではなく、駅からの徒歩を想定して出入り口を設定すべきです。また、バスの利用も施設内で展開できるような構造も考えるべきです。そして、施設が駅から見えるような工夫がなされれば、心理的にも遠さをカバーできると考える。以上のとおり、民間の提案を募る際には、そうしたアクセスの利便性を少しでも向上する工夫が求められる。

【提言2:メインアリーナとサブアリーナの面積配分や形状については民間提案を尊重すべきである】

興行用としての利用を想定するのであれば、正方形が好ましいとのことであった。全体の延床面積については、現在の利用状況やニーズ、40年後の人口動態を勘案して、現在の基本計画案で進めるとしても、PFI事業で事業を実施する限りは、単なる延払い事業とならないよう、民間のノウハウを最大限活用しなければならない。よって、建設後の利用者の利便性の向上を鑑み、民間事業者の提案を最大限尊重すべきと考える。